

令和元年度 第2回 歯科口腔保健推進検討部会 議事録	
日 時	令和2年1月29日（水）19時～21時
開催場所	市庁舎5階 関係機関執務室
出席者等	歯科口腔保健推進検討部会委員 13名（別添名簿のとおり） （欠席者：瀬戸委員）
開催形態	公開（傍聴者0人）
開会	事務局より会議の成立確認、開会の案内
開会挨拶	藤原 健康福祉局健康安全部健康推進担当部長より挨拶
議題1	議題（1）第1回歯科口腔保健推進検討部会の議事について <【資料2】第1回歯科口腔保健推進検討部会の振り返り> 事務局から資料2について説明
質問等	<p>（山本(龍)部会長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科の役割を考えたときに、歯科疾患を把握して減らしていこうという見方と、全身の健康の兆候などの早期発見に関する役割という2つの見方がある。計画策定にあたり、この分類・視点も踏まえて整理していくといいのではないか。 <p>（田中委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テレビなどのメディアから歯に関する多くの情報が入ってくるが、本当に正しい情報なのか受ける側としては分からない部分がある。市民がわかりやすいようにしっかりとした情報提供ができればいい。 <p>（佐藤委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ たとえば、一時期、テレビで、ある大学の教授が食後30分は歯を磨かない方がいいと言っていたが、日本学校歯科医会の見解として、小・中・高校に関しては、食後はすぐに磨きましょう、という結論に達した。やはり歯磨きの習慣づけをつけましょうというところが一番の決め手。こういった話も含め参考にしていきたい。 <p>（山本(龍)部会長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 横浜市から正しい情報を出していけたらいい。歯科医師会、歯科衛生士会など専門家のバックアップなどもあれば非常にいいものができる。必ずしも横浜市のみで作る必要はなくて、正しい情報にアクセスできるようなネットワークを活用するというのもよろしいかと思う。 <p>（堀元委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科口腔保健だけではなく、健康づくりに関して他職種への情報発信・連

	<p>携という視点も必要となる。</p> <p>(清水委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者分野では、一次医療を担う医師・歯科衛生士を増やし、二次・三次医療との連携システムの構築を課題と考えている。横浜市は障害者歯科医療に係る二次医療機関が一か所しかない。理想を言うと40万人に一か所だが、せめて東西南北の4児童相談所単位に一か所くらいは欲しい。 <p>(山本(龍)部会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者歯科関係も、まだまだデータが不足しているというところもある。現状の施設数と、必要とする障害児・者の数等を踏まえて検討していただくことが必要ではないかと思う。
議題2	<p>議題 (2) 今後のスケジュールについて</p> <p><【資料3】 歯科口腔保健推進計画策定スケジュール></p> <p>事務局から資料3について説明</p>
質問等	なし
議題3	<p>議題 (3) 歯科口腔保健推進計画骨子 (案) について</p> <p><【資料4】 骨子案の概要></p> <p><【資料5】 骨子案></p> <p><【資料6】 歯科口腔保健推進計画の策定に関する基礎資料 (案) ></p> <p>事務局から資料4～6について説明</p>
質問・意見交換	<p>(山本(妙)委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 強化して取り組む施策に関して、食育の推進と生活習慣病予防の連携ということが併記されているが、ここで担うべき食育とは何を指しているのか。歯科口腔保健の観点からの食育について、どこに力点を置いていくか。 ・ 食育の中で目指すところは、2本立てで考えている。一つは市民が主導で一人一人が実現し行動していくもの、例として、歯を磨くとか、きちんと食事をするという事柄をひとつひとつ進めていくというもの。もう一方では、それを実現するためにどういう社会環境・学習環境を作っていくかという環境整備の部分がある。いろいろ細かい視点もあるが、本計画において各ライフステージにおいてどれが重要かという点を示していただければ、我々栄養士会も重視して取り組んでいきたい。 <p>(佐藤 健康安全担当部長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食育は健康横浜21の中にもあり、食生活と歯・口腔は切り離せないと考え入れている次第。今日は目安として骨子案の中で出しているが、具体的な内容については、まさに本日ご意見を頂きながら、それぞれの役割分担を整理していきたいと思う。

(山本(龍)部会長)

・近年、ファストフードがいわゆるおふくろの味になっている、という話を聞いたことがある。こういったことに対して、何ができるのか、何かしらの連携をとっていければと思う。なにか具体例があると、どういう連携をしましょうとか、イメージを持ちながら作れると思う。

(佐藤委員)

・確か肥満については、教育委員会にデータがあると思う。私の担当している学校では、5～6年生が同年代の平均体重よりも相当な肥満であった。市内18区の中でもいろいろな特徴があり、例えばある区では外国籍の子や共働き家庭・母子家庭が比較的多く、食の偏りなどによりう蝕や歯肉炎につながりやすいケースがある。

・資料6の2枚目食育推進の欄にある「窒息予防」について、「嚥下機能の回復」とか「嚥下機能を強化する」とか、強化という文言の方向に変えてもいいのではないか。

・栄養バランスの良い食事も大事であるが、高齢者でいえば、動物性たんぱく質を一定程度摂取するということも必要。世代によって必要となるものが変わってくるという点も、今後中身の話をする際に留意しておきたいところ。

・資料4の「計画の目的」は、一言で言えばヘルスプロモーション（人々が自らの健康をコントロールし、改善していくプロセス）。横浜市民が主役であり、主役が置いて行かれないようにしないといけない。370万人の健康観や価値観について、これまでに持っているデータでもそれぞれの特性が見えるのではないか。

・市民への情報提供もとても大事で、一律の情報提供というより本当に求めているものを知れるような計画となれば、市民が自ら能動的に行動に移せるようになるのではと思う。

(事務局)

・計画の目的については、ヘルスプロモーションの理念に基づくという点をもう少しクローズアップして検討をしていきたい。情報提供については、誰にどういう情報をどうやって届けるのか、それがどう行動変容につながるのかといったところにも働き掛けないといけないと考えている。ただの情報提供でなく、行動変容のスイッチを押せるような情報提供をやっていきたい。

(塩山委員)

・各ライフステージの特徴と考え方が資料6でまとめられているが、環境の違い・変化も大きい。例えば、乳幼児のサロンやクリスマス会など地域のイベントなどをみると、やはり家族形態が変わっているのを実感する。本当に孤立している若い世代が多いのではないか。そうすると子どもが生まれて大切

な時期に、外からの目がなかなか入ってこない。特に外から入ってくる若い世代が多い地域などでは、相談にのってもらえる機会が少ない方も多く、自分の中でどんどん固まっていきやすいので心配なところ。高齢者の孤立ももちろんであるが、乳幼児や若い世代の孤立という課題も視野にいれながら施策を考えていくと、各世代を支えることにつながる。

(山本(龍)部会長)

・先ほど、保健指導、ヘルスプロモーションの話が出たが、地域ケアプラザではいろいろな対象像の方にアクセスできる場所があるのがいい。歯科と歯科以外とのコラボレーションなどもされているのか。

(塩山委員)

・介護予防事業を行っている中で、歯科と栄養などをテーマに必ず実施するようにしている。

(事務局)

・地域ケアプラザは、地域包括支援センターを作るモデルとなったもので、横浜市は先駆的に対象を問わず地域活動拠点や相談機関、教育機関として運営している。現に、今はケアプラザを会場として様々な教室などを開いており、歯科医師会からもご協力いただくなど関係機関との連携も深まっている。

(清水委員)

・資料4で、「障害児・者の家族やサービス従事者への啓発・指導」とあるが、障害児の場合は家族だが、障害者の場合は当事者への対応も重要なので、「当事者・家族やサービス従事者～」に訂正してもらいたい。

(田中委員)

・これまでの食育は、健康とか栄養素などの観点でやってこられたのではないかと思うが、これに口腔の観点も加味して、ライフステージごとにきちんと構築していくことがこれからは大切ではないかと思う。

(堀元委員)

・今回、歯科口腔保健に食育が加わってきたが、これまで栄養学的な視点が中心であったが、これからは口腔機能の視点も含めることが必要である。また、それぞれの世代・対象像で目的が異なっており、多職種との連携が計画の中に明確に位置づけられて、各専門家の役割が計画の中に細かく入ってくれば、より良い食育推進につながるのではないかと。

・生活習慣病予防についても、もう少し柱建てしてもいいと思う。また、同じ疾患に対して、歯科と医科と異なる視点でそれぞれの気づきがあることが

あるため、医療との連携も重要。

(川田委員)

・生活習慣病の予防については、特定健診を強く推進しており、それも少し計画の中に入れていただきたい。受診率の向上にも資するだけでなく、その結果やフィードバックから次の施策等の検討にもつながる。

(鈴木委員)

・横浜市の学校保健では、食育や生活習慣病、歯科予防などについて、学習指導要綱に基づき取り組んでいる。外国につながるのあるお子さんがいる家庭など、個別の事情があるケースは集団指導の中では上手くいかない部分がある。

・最近、学校にスクールソーシャルワーカーを派遣する制度が少しずつ広がっている。ただし、教員だけではなく、子育て支援などともうまく連携してやっていけると良いと感じる。

・先ほど肥満のデータを教育委員会が持っているのではという話が出たが、学校では4・5月に実施した健康診断結果を、学校保健統計調査としてまとめることとなっている。肥満に関して言えば、全国的に横ばいかやや減っているが、特定の地域、特定のお子さんに非常に気になる状況があり、それぞれの学校で工夫しながら指導しているという状況。

・このほか、外国につながるのあるお子さんや、ADHDなど軽度の発達障害のお子さんもノーマライゼーションで通常の学校に必ずいて必要な支援が多様化している。ひとりひとりに丁寧な関わりが求められている状況にある。

(山本(龍)部会長)

・スクールソーシャルワーカーについて、横浜市ではどのようになっているのか。

(事務局)

・横浜市では、全国に先駆けてスクールソーシャルワーカーを導入しており、他都市に比べると活用割合も高い。例えば中学校ブロックで同じスクールソーシャルワーカーを配置するという事で連携を図っている。

(鈴木委員)

・スクールソーシャルワーカーは、学校の非常勤職員という位置づけで、文部科学省や教育委員会としての制度が整いつつある。ただし、常勤ではないうえ、何校に一人の配置のため、その学校に専任でいて事情がよく分かりいづも関わるとい状況にはなっていない。予算的な制約が一番大きい。

(山本(龍)部会長)

・そういった状況なら、骨子案に入れるかどうかは今後の状況をみて検討してはどうか。

(山本(妙)委員)

・妊産婦のところで、「胎児の歯が形成される時期」とあるが、妊産婦の健康を守るというのは当然のことながら、栄養の観点からみると若年の低栄養のリスクがとても高まっている。妊娠に気づいた時には出産に向けた十分な栄養状態を維持するという準備ができておらず、すでに遅いというような問題意識も強くある。歯に関して、妊娠したその時からきちんとコントロールできれば、生まれてくるお子さんの歯の形成や食べる機能の順当な発達は保障されるのか。

(山本(龍)部会長)

・妊娠が判明した頃から一生懸命改善をすることで、全身の健康状態・栄養状態がよくなるかどうか、あまりよくならないとしたら、歯も正常の方のようにはならないのかなと思う。

(川田委員)

・期間によると思うが、短期間に過食したからと言って定着した栄養状態が得られるかという、それは少し別問題。やはり正常状態にするにはある程度の時間が必要。

(石黒委員)

・歯科衛生士の教育の場面では、食育の観点は以前よりも多く含まれるようになった。どのような食形成を行っていけばよりよい食育を推進できるのかなど、市民に身近な存在である歯科衛生士の任務になるのではないかなと思う。

・高齢の方は全身の健康状態がよくないと、入院後に状態を上げていくのが大変。口腔機能の評価は診療報酬上で加算として導入されており、機能評価できる歯科医師の先生とともに、歯科衛生士も関与しなければいけない。

・ケアプラザ等で、市民に「こういう機能評価が出たら、こういう体操をしましょう、こういう食事をとっていきましょう」という働きかけと、数値やデータなどで納得してもらい継続してもらおうというのが大事。

・どうやったらそこに目を向けていただけるかというのはアプローチの仕方によると思う。アプローチの工夫もヘルスプロモーションとしては必要なのでないか。

(山本(龍)部会長)

・資料4の「強化して取り組む施策」には「市民への情報提供、関係機関・地

	<p>域の活動団体との情報共有及び連携」とあるが、情報について資料6の中ではどこに入るのか。</p> <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携という項目のところに含まれる。 <p>(石黒委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料6の連携のところ、ツール・アプローチ方法をどうするのかというのでも検討していただきたい。 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・骨子案への組み込み方は検討したい。 <p>(山本(龍)部会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職域でパンフレットを配るだけでも、ある程度の行動変容がみられたという研究もある。パンフレット1枚で少し行動変容が起こるだけでも費用対効果は高い。 <p>(佐藤委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害への備えに関して、災害時の口腔ケアについては各区で行っていると思うが、個人データの蓄積というのが全くなく、災害時の身元確認が難しい。これは本部会のテーマではないと思うがそのような課題もある。
部会長 まとめ	<p>(山本(龍)部会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日は、前回の振り返りをして今後の対応を検討いただいた。今後のスケジュールは資料3に沿った方向性で進めることとし、骨子案の概要についてご意見をいただいた。 ・計画の目的や施策について、もう少しヘルスプロモーションを通した市民目線の記載があった方がいいなどのいくつかのご指摘をいただいた。 ・また、食育について、ライフステージを意識して、栄養の観点というより口腔機能の観点から考えていく必要がある。 ・生活習慣病予防については別の柱建てで考えてもいいのではないかという意見や、特定検診や特定保健指導というところも少し入れてはどうかという意見もあった。 ・参考になるところがあればそういうところを踏まえて今後の骨子案に反映させてほしい。
閉会	<ul style="list-style-type: none"> ・3月に健康横浜21の推進会議があり、途中経過を報告する予定。 ・修正した骨子案については、次回の検討部会で見えていただく。